

また、ハコネオオクジャクの葉軸の下方の鱗片は、オクマワラビに似て先端は葉軸からはなれるのに対し、オオクジャクシダは圧着する。しかし、色はオオクジャクシダに似て茶褐色である。これらの特徴から、ハコネオオクジャクシダであると判断された。

これらのシダは、5月に新芽を出し、5月10日の観察では、草丈はオオクジャクシダとオクマワラビが50cm前後と小さく、ハコネオオクジャクは70cm前後と大きかった。

倉田・中池 (1997) には、「両種が混生している中に唯1株見出されたのみで」云々とあるが、氷見市の産地でも今のところ両者の混成地で1株のみである (図5)。

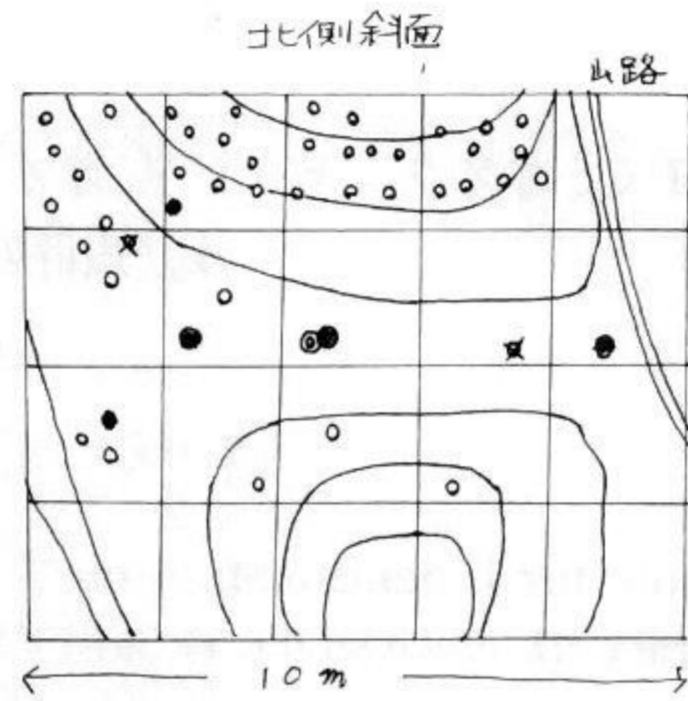


図5 氷見市鞍川におけるハコネオオクジャクシダ(○)の生育状況

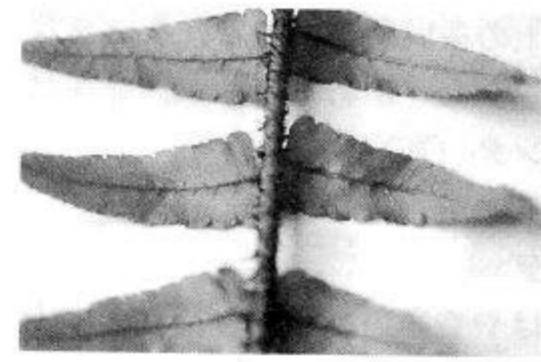


図2 オオクジャクシダの中軸と羽片

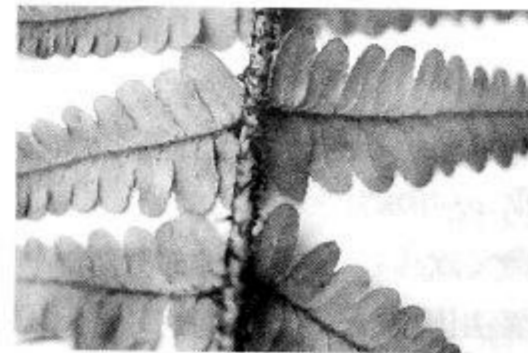


図3 ハコネオオクジャクシダの中軸と羽片

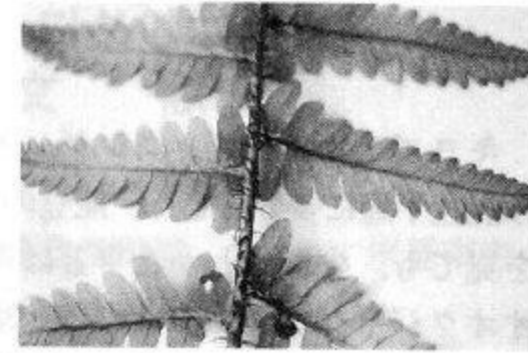


図4 オクマワラビの中軸と羽片

表1 キヨズミオオクジャクシダほか3種の特徴比較

形質		キヨズミオオクジャクシダ	オオクジャクシダ	ハコネオオクジャクシダ	オクマワラビ
葉	全体	長楕円形 黄緑色	楕形 濃い緑	楕形 緑	楕形 緑
	羽片の切れ込み	浅い	深い	深い 一部2回羽状複葉状になる	深い 往々、2回羽状複葉状になる
鱗片	色	茶色~褐色	黒色	茶褐色	黒褐色と黒い筋
	落性	早落性	宿存性	早落性	宿存性
孢子嚢群		葉裏全面	葉裏全面	葉裏の上半分	葉裏の上半分

富山県の産地は上市町のみ、石川県では七尾市から分布が報告されている。両親種が生育するところを探せば、さらに見つかる可能性がある。

謝辞

本稿の構成については、富山市科学文化センター 太田道人氏に助言いただいた。御礼申し上げます。

文献

小牧旌. 1987. 加賀・能登の植物図譜, 273pp.

同刊行会. 石川県.
倉田悟・中池敏之. 1985. 日本のシダ植物図鑑 4, 850pp. 東京大学出版会, 東京.
倉田悟・中池敏之. 1997. 日本のシダ植物図鑑 8, 473pp. 東京大学出版会, 東京.
太田道人. 1999. 富山の絶滅危惧植物. 特別展「ともに生きよう! 地球の仲間たち」展示解説. 富山市科学文化センター: 23-25.
(2000年12月28日受理)

富山市でのニホンヤモリの卵の観察例

南部 久男

富山市科学文化センター 〒939-8084 富山県富山市西中町1-8-31

A Record of Eggs of Japanese Gecko, *Gekko japonicus*, at Tayama City, Central Japan

Hisao Nambu

Toyama Science Museum, Nishinakano-machi 1-8-31, Toyama-shi, Toyama 939-8084, JAPAN

ニホンヤモリの卵を発見した場所は筆者が勤務する富山市科学文化センター内 (富山市西中野町1-8-31) である。2000年11月30日に、当館の吉本敬子氏が発見し筆者が連絡を受け確認したものである。卵があった場所は、正面玄関の受付にあるパンフレットとバケツの傘置き裏側で、床からの高さ49cmのタイルの壁面に2個生み付けてあった (図1)。卵は傘に隠れ、周りからは見えない位置にあった。卵は白く長円形で、大きさはそれぞれ15×11、14×9mmであった。卵の下側には幼体が抜け出たと思われる穴が空いていた。

この場所は当館の受付で売店も兼ねている。壁際には、販売用の荷物が置いてあり、荷物の裏で成体1個体、亜成体1個体が見みられた。当館は、1979年(昭和54年)11月にオープンし、周辺は城南公園となっている。オープン直後より通用口の玄関内の壁面でヤモリを確認しているが、以後、時々館内の玄関周辺等で目撃される。

今回の卵の情報を教えていただきました吉本敬子氏に厚くお礼申し上げます。

(2000年12月28日受理)

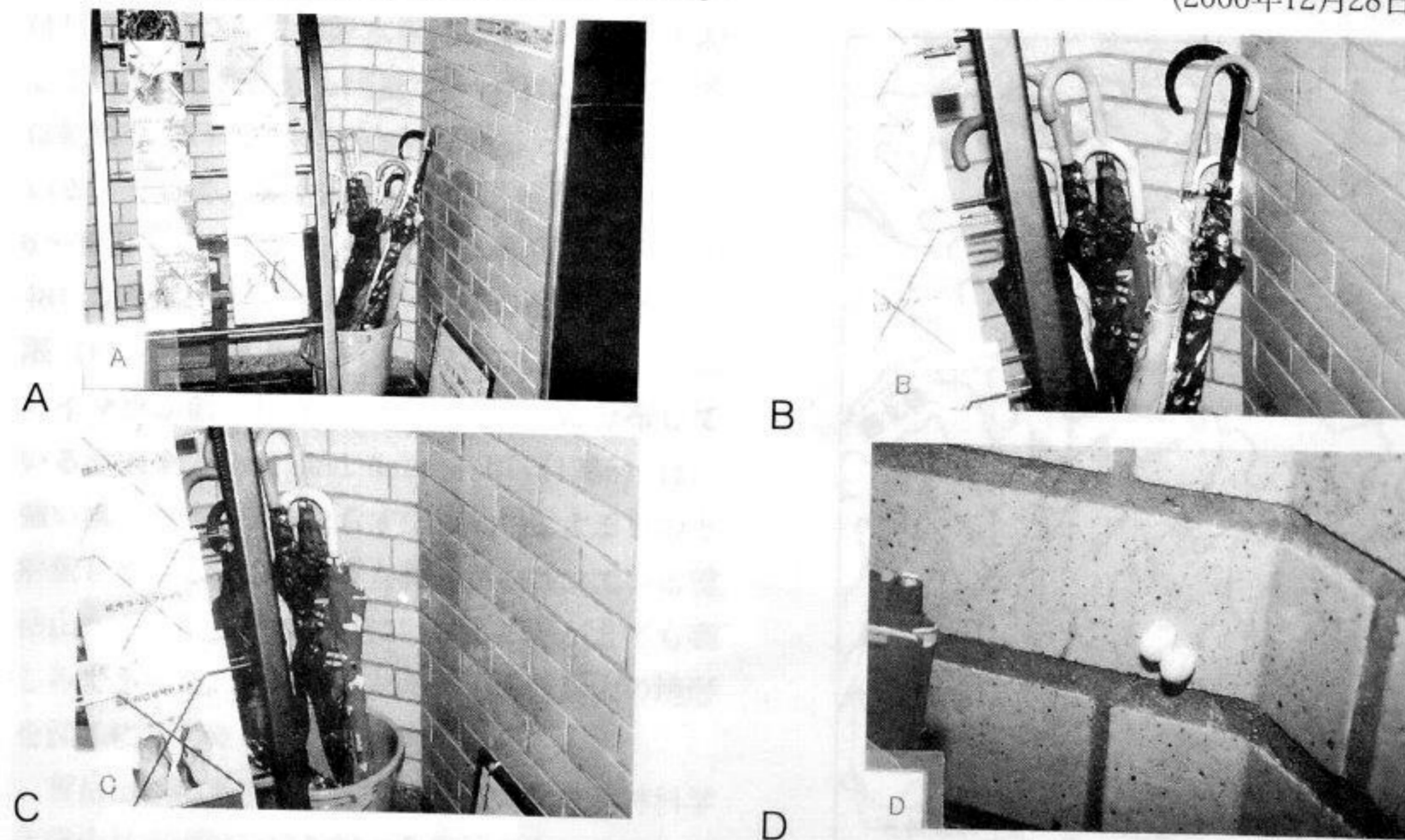


図1 ニホンヤモリの卵の確認場所
A. 卵が産みつけられていた、受付のパンフレットと傘置き場 B. 卵は傘の裏にあり、見えない
C. 傘をどかしたところ D. 壁のタイルに産みつけられていた卵